

豊工生の手引きについて

「ものづくり」は、我が国の根幹を成すものです。

新入生諸君は、卒業後の進路がいずれであっても、何らかの形で「ものづくり」に携り、日本の産業の中心である製造業を担う技術者となるために入学してきていることと思います。

本校は、基礎的な技能・技術の習得と向上をベースとし、その上で、技術の進歩や社会の変化に対応できる、卒業後も学び続けることのできる人物像を目指していきます。

そのために、「人間力」「行動力」「思考力」を重点的に磨いていきます。新入生諸君が、社会をリードできる、心豊かな技術者となることを期待します。

この手引きは、豊田工科高校の生徒として充実した学校生活を送り、様々なことを経験し、多くのことを学び、習得するために必要な基本的事項が載せてあります。

この手引きをよく読み、今後の学校生活の諸活動において活用して下さい。

また、お子様の健全なる成長を図るためには、家庭と学校が協働して見守っていくことが不可欠です。保護者の皆様方におかれましても、この手引きに示された学校の指導方針・内容等をご理解いただき、ご家庭における教育にも活用していただければと思います。

愛知県立豊田工科大学校長

1 スクールポリシー「三つの方針」

- 1 目指す生徒像（育成を目指す資質・能力に関する方針）
 - かけがえのない自他の生命を大切に思う人
 - 諸課題に対して、多面的に、長期的に、根本的に思考できる人
 - 自らの成長を実感しようとする人
- 2 本校における学び（教育課程の編成及び実施に関する方針）
 - 「人あって技術あり」人間教育を重んじた学びの実現
 - 規範意識と技術者倫理に基づいた学びの実現
 - 生徒の主体性を重んじた学びの実現
 - 工業科として「より豊かに、より便利に」を求め続ける学びの実現
- 3 入学を期待する生徒像（入学者の受入れに関する方針）
 - 自らを大切に、他者を思いやることに努力できる人
 - 「あきらめない」気持ちを持つことに努力のできる人
 - 少しでも成長したいと思うことのできる人

【校 訓】

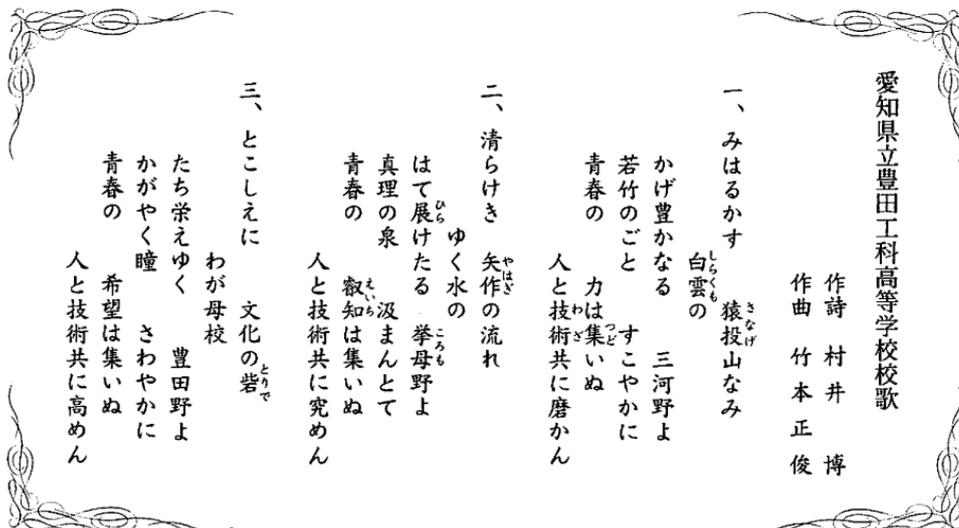
ひと ぎじゅつ 人あって技術あり

本校の校訓には二つの意味が込められています。

一つは、「技術者となる前に人として立派であれ」ということです。つまり、知識・技術の習得は、工業技術を身につけて将来活躍するために必要なことは当然ですが、それ以前に人間として立派に成長することを求めているという意味です。

もう一つは、「人間あつての科学技術である」という正しい認識と心構えが工業人にはなくてはならないということです。本来、科学技術は、人間にとって目的ではなく、生活の豊かさを求める一つの手段であるということを、常に忘れない工業人として社会に役立ってほしいという意味です。

【校 歌】



愛知県立豊田工科高等学校校歌

作詩 村井 博
作曲 竹本 正俊

一、みはるかす 白雲の 猿投山なみ
かげ豊かなる 三河野よ
若竹のごと すこやかに
青春の 力は集いぬ
人と技術共に磨かん

二、清らけき 矢作の流れ
ゆく水の 挙母野よ
はて展けたる 汲まんとて
真理の泉 叡知は集いぬ
人と技術共に究めん

三、とこしえに 文化の砦
わが母校
たち栄えゆく 豊田野よ
かがやく瞳 さわやかに
青春の 希望は集いぬ
人と技術共に高めん

2 本校の教育課程

令和7年度入学生教育課程

愛知県立豊田工科高等学校 全日制課程

教科	科目	標準 単位数	1年	I T 工 学 科			機 械 科			自 動 車 科			電 子 工 学 科						
				2年	3年	合計	2年	3年	合計	2年	3年	合計	生活コース			合計			
													2年	3年	合計	2年	3年	合計	
国語	現代の国語	2	2			2			2			2			2			2	
	言語文化	2		2		2	2		2	2		2		2	2			2	
	国語表現	4			2◆	2		2◆	2		2◆	2		2◆	2		2◆	2	
地理 歴史	地理総合	2		2		2	2		2	2		2		2	2			2	
	歴史総合	2			2	2		2		2		2		2			2	2	
公民	公 共	2	2			2			2			2			2			2	
数学	数 学 I	3	3			3			3			3			3			3	
	数 学 II	4		4		4	4		4	4		4	4		4	4		4	
	数 学 III	3			★3	0か3		★3	0か3		★3	0か3		★3	0か3				
	数 学 A	2			2	2		2	2		2	2		2	2		2	2	
	数 学 C	2		★2		0か2	★2		0か2	★2		0か2	★2		0か2				
理科	科学と人間生活	2		2		2	2		2	2		2	2		2	2		2	
	物理基礎	2	2			2			2			2			2			2	
	化学基礎	2			2	2		2	2		2	2		2	2		2	2	
保健 体育	体 育 7~8	3	3	2	2	7	2	2	7	2	2	7	2	2	7	2	2	7	
	保 健	2	1	1		2	1		2	1		2	1		2	1		2	
芸術	美 術 I	2	2			2			2			2			2			2	
外国語	英語コミュニケーションI	3	3◆			3			3			3			3			3	
	英語コミュニケーションII	4		2◆	2	4	2◆	2	4	2◆	2	4	2◆	2	4	2◆	2	4	
	論 理・表 現 I	2		★2	★3	0か2か 3か5	★2	★3	0か2か 3か5	★2	★3	0か2か 3か5	★2	★3	0か2か 3か5				
家庭	家 庭 基 礎	2	2			2			2			2			2			2	
情報	情 報 I	2																	
工業	工業技術基礎	2~4	3			3			3			3			3			3	
	課題研究	2~6			3	3		3	3		3	3		3	3		3	3	
	実 習	6~15		6	3	9	6	6	12	6	6	12	6	3	9	6※	3※	9	
	製 図	2~10	2	★2		2か4	★2	★2	2か4か6	★2		2か4			2			2	
	工業情報数理	2~4	2			2			2			2			2			2	
	工業管理技術	2~8			★2	0か2	★2		0か2										
	機 械 工 作	2~8				2			2	★2		0か2							
	機 械 設 計	2~8				2◆	2◆	4											
	原 動 機	2~4						★2	0か2										
	電 子 機 械	2~8			★2	0か2	★2		0か2										
	生 産 技 術	2~6	2			2			2			2	★2		2か4			2	
	自 動 車 工 学	2~8							2◆	2◆	4								
	自 動 車 整 備	2~8							2◆	★3	2か5								
	自 動 車 電 装 *	3								★3◆	0か3								
	電 気 回 路	2~8		2◆								2◆		2	4	2◆		2	4
	電 力 技 術	2~6											★2		0か2				
	電 子 回 路	2~6			3◆	3						2◆	3◆	5	2◆	3◆		5	
	電 子 計 測 制 御	2~6											★2		0か2			2	2
	通 信 技 術	2~6											★2		0か2			2	2
	プログラミング技術	2~8		2◆	2◆	4													
ハードウェア技術	2~8		★2		0か2							★2		0か2	2			2	
コンピュータシステム技術	2~8				★2	0か2													
家庭	保 育 基 礎	2~8																2	2
	フ ー ド デ ザ イ ン	2~8													2				2
共 通 科 目 計			20	15か19	12か18	47・51・ 53・57	15か19	12か18	47・51・ 53・57	15か19	12か18	47・51・ 53・57	15か19	12か18	47・51・ 53・57	15	12	47	
専 門 科 目 計			9	14か10	17か11	40・36・ 34・30	14か10	17か11	40・36・ 34・30	14か10	17か11	40・36・ 34・30	14か10	17か11	40・36・ 34・30	14	17	40	
特別 活動	ホームルーム活動	—	1	1	1	3	1	1	3	1	1	3	1	1	3	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6																	
合 計			30	30	30	90	30	30	90	30	30	90	30	30	90	30	30	90	
備考	○記号について ★：共通科目と工業科目のうちどちらかを選択（2・3年次に連続して履修する科目は2単位履修と4単位履修を分けて授業を行う） S：学科内科目選択 ◆：習熟度 *：学校設定科目																		
	※：企業から女性講師を招きものづくり企業のダイバーシティや男女共同参画を促進できる人材育成を目指した内容を取り扱う																		
	○科目等の代替 ①「情報I」を「工業情報数理」で代替 ②「総合的な探究の時間」を「課題研究」で代替																		
	○学校外における学修																		
		教 科 名		学 校 外 活 動															
		科 目 名		大学等における学修	ボランティア活動	就業体験活動	技の探究講座	クラフトマンⅢ											

3 主な年間行事計画と日程・週計画表

本年度の主な年間学校行事計画は下記のとおりです。

学 期	月 旬	主 な 年 間 行 事 計 画
I 学 期	4月	入学式、始業式、クラス写真、身だしなみ指導、避難訓練 部紹介・部ミーティング・部登録、クレペリン検査、1年携帯電話安全教室 1年自転車安全講習、自転車点検、内科検診、1年心電図・レントゲン・尿検査 個人面談、進路希望調査
	5月	体力テスト、3年進路説明会、PTA 総会 3年保護者進路説明会、体育大会、眼科検診、歯科検診
	6月	全校集会、計算技術検定、情報技術検定、機械製図検定1次 心の授業、3年面接指導、1学期期末考査 1年職業適性検査、機械製図検定2次
	7月	保護者会、公開授業、就職求人受付開始、3年自動車学校入校説明会 身だしなみ指導、夏の交通安全県民運動、特別清掃、終業 1年第1回選科希望調査、追考査 中学生体験入学、学年集会（各学年）、インターンシップ、クラフトマンⅢ
	8月	全校出校日
II 学 期	9月	始業、1・2年基礎力診断テスト、個人面談、防災訓練、身だしなみ指導、 秋の交通安全県民運動、就職試験開始、生徒会役員立会演説会・選挙、 2学期中間考査、英語検定
	10月	生徒会認証式、1年第2回選科希望調査、1年選科説明会 大規模地震災害合同訓練、豊工祭
	11月	全校集会、身だしなみ指導、計算技術検定、1・2年スタディールーム説明会 3年進路指導講座、保護者会、1年選科面接
	12月	年末の交通安全県民運動、2学期期末考査、人権講話、特別清掃、終業 学年集会（各学年）

学 期	月 旬	主 な 年 間 行 事 計 画
Ⅲ 学 期	1月	始業、身だしなみ指導、1・2年基礎力診断テスト、情報技術検定 1年選科面接、3年課題研究発表会、1年選科決定通知 スタディールーム決定通知、薬物乱用防止講話、2年修学旅行
	2月	3年学年末考査、3年自宅学習、3年追認考査、1・2年学年末考査 1・2年追認考査、2年進路講座、入学者選抜試験
	3月	卒業式、新2年学科別オリエンテーション、生徒会役員立会演説会・選挙 教科書販売、特別清掃、終業式、合格者説明会、新2・3年個人写真撮影

日程表・週計画表

1日の日程および週の計画は、特に計画がない限り下表のとおりです。 (○印は教科授業)

時間	時間	月	火	水	木	金
	8:30~8:40	職 員 朝 礼				
	8:40~9:00	特 別 教 育 活 動				
S・T	9:00~9:10	ホームルーム・ショートタイム				
1	9:10~10:00	○	○	○	○	○
2	10:10~11:00	○	○	○	○	○
3	11:10~12:00	○	○	○	○	○
	12:00~12:40	昼 食				
4	12:40~13:30	○	○	○	○	○
5	13:40~14:30	○	○	○	○	○
6	14:40~15:30	○	○	○	HR・LT	○
	15:30~15:45	清 掃				
S・T	15:45~15:50	ホームルーム・ショートタイム				
	15:50~	部 活 動				

4 学習について

1. 学習評価について

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点についてABCで評価し、5段階の評定を算出します。評価は、テストの点数だけに限らず、日頃からの授業や学習への取り組み方が大きく影響します。授業や学習に主体的に取り組む、自身の成長を目指しましょう。

学習評価の観点と内容

観点	内容
知識・技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価します。
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のための必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。
主体的に学習に取り組む態度	知識・技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、粘り強い取組を行おうとしている側面と、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという側面を評価します。

各観点の評価基準

A	「十分期待できる」状況と判断されるもの
B	「おおむね期待できる」状況と判断されるもの
C	「努力を要する」状況と判断されるもの

2. 定期考査と追考査

定期考査は年間4回実施されます。これは、それぞれの授業中に学習した内容をさらにしっかり勉強しなおすことと、理解を深めたことを知るためのものです。日頃から学習に努力し、考査直前に慌てることないように、ふだんからしっかり勉強しておきましょう。

(1) 定期考査について

ア 実施日

1学期………期末考査 6月中旬頃

2学期………中間考査 9月下旬頃 期末考査 12月上旬頃

学年末………3年 1月下旬頃 1・2年 2月中旬頃

イ 考査時間割

考査1週間前に時間割を発表します。公式試合等特別なことがなければ、部活動も一時中止されます。

ウ 考査日数と考査時間数

中間考査は4日間、期末・学年末考査は5日間、1日2～3時間の考査時間です。しっかり勉強しましょう。

(2) 追考査・追認考査について

成績不振者には、定期考査後の適切な時期に不振科目について追考査を実施し、合格点を取れば合格の評価をしています。しかし、不合格だとそのまま不振評価が残り、他の学期で挽回しなければなりません。3学期は、最後の機会として追認考査を実施しますが、単位認定に必要な成績を収めていなければ、進級できません。万一成績不振になってしまった時には、追考査の段階で確実に合格点をとるよう、頑張ることが必要です。

3. 単位について

高校では1単位時間を50分とし、1年間に35単位時間(35週)の授業を行い、これを1単位として計算しています。基本的には、1週間に1回の科目は1単位、1週間に2回の科目は2単位と考えれば良いことになります。

高校は単位を必要な数だけ取れば卒業できます。卒業に必要な単位を取るためには、まず履修が認められることが必要となります。履修が認められた上で、ある一定以上の成績であれば修得が認められ、単位を取ったことになります。

○履修

履修とはその単位を取る目的で、きちんと授業を受けることをいいます。具体的には、規定以上の授業の出席時数を確保し、課題等の提出状況が良く、授業態度が良好であれば履修が認定されます。遅刻や欠席、出席停止などによって、授業に参加できない時間(欠課)が重なると、履修が認定されません。本校では、進級、卒業のためには全科目履修する必要があります。履修が1科目でも認定されないとその学年をやり直すことになります。

○修得

履修が認められた科目で、年度末に5段階評定の「2」以上の成績を収めると、その科目の単位を修得することができます。履修が認められていない科目は修得できません。なお、各学年で規定以上の単位数を修得しないと進級、卒業が認められません。

5 生徒指導について

本校では、集団生活の中で協調性を育むとともに自己を確立し、心身ともに健全で社会で活躍できる人材を目指して以下の方針で指導して参ります。

- (1) 基本的な生活習慣を確立し、高校生としてふさわしい礼儀や作法を身に付ける。
- (2) 命の尊さを理解し、他人の喜びや痛みを理解できる心を養う。
- (3) 交通ルールを守るとともに、交通マナー、交通安全に関する意識を涵養する。
- (4) 生徒会活動や部活動に積極的に参加する。
- (5) 社会貢献活動や、こころの育成活動には積極的に参加する。

以下、具体的な生徒心得について十分な理解をしておいてください。

1. 学業

- (1) 学校は午前9時に始業。
時間に余裕を持って登校し、始業5分前（予鈴）までに着席すること。
- (2) 欠席、遅刻、早退、欠課をしないように努める。
- (3) やむをえず欠席、遅刻する場合は、必ず保護者より事前に連絡をすること。
(当日朝に連絡をする場合は、できる限り8時25分までに Teams にて連絡をお願いします)
- (4) 定期考査の病気欠席等の場合には通院が証明できるものをクラス担任に提出すること。
- (5) 忌引の期間は次の通りとする。

・ 父母の死亡	7日以内
・ 祖父母、兄弟姉妹の死亡	3日以内
・ 同居親族の死亡	1日
・ 叔父父母・曾祖父母の死亡	1日
・ 父母の法要	1日

遠方で葬儀がある場合、移動時間を考慮するので学校に相談をすること。
- (6) 次の場合は公認欠席として出席扱いとする。ただし、授業時数は欠課となる。
 - ・ 公式試合に出場する場合
 - ・ 公式会合、公式行事に参加する場合
 - ・ その他特に学校が承認した場合

2. 身だしなみ

別紙資料をご覧ください。

3. 交通安全

- (1) 交通ルールを遵守し、自分の命、他人の命を大切にす。
- (2) 自転車通学者が道路交通法に違反するような以下の行為は指導対象とする。
携帯電話等の使用（ながら運転）、イヤホン、並列運転、斜め横断、信号無視、一旦停止無視
二人乗り、傘さし運転など

- (3) 交通事故にあった場合には適切な対応をとること。
- ①相手がいる時・・・自身と相手のケガの状況を確認し、状況によってはすぐに救急車（119 番）を呼ぶ。
軽度なもので連絡先を必ず交換し、その場で警察、保護者に必ず連絡し、その後に学校に連絡をする。
 - ②自損事故・・・ケガの状況によっては救急車を自ら呼ぶ。軽度なもので学校に報告をする。
- (4) 校内では指定された自転車置き場に整理整頓して置き、必ず施錠をすること。
- (5) 原則車道の左側を通行すること。やむを得ず歩道を通行する場合は、歩行者に十分注意をする。
- (6) ヘルメットを着用することが望ましい。ロードバイク、クロスバイク、マウンテンバイク等スピードが出る自転車で登校する場合はヘルメットを着用して登校すること。
- (7) 愛知県で義務となっている自転車保険の加入は、本校では全員が「全国高 P 連賠償責任制度」に加入しているため、条件を満たしています。詳しくは「全国高 P 連」のホームページをご覧ください。
- (8) 原動機付自転車、自動二輪車について
- ・「バイクの免許を取らない、バイクを買わない、バイクに乗らない、バイクに乗せてもらわない」の「四ない運動」に従うこと。
 - ・通学の都合上、やむを得ず免許取得と乗車を希望する場合は担任及び生徒指導部へ相談をすること。
- (9) 自動車免許取得について保護者の責任、学校の許可のもとで入校を認める。
- ・原則 3 年生 2 学期期末考査終了後から本校指定の自動車学校へ通学することができる。
 - ・学校の定めたルールのもとで実施すること。
 - ・学校生活や学業に支障をきたした場合は、ルール違反、生徒指導対象となった場合には教習を停止とする。

4. その他

- (1) アルバイトについて
- ・原則禁止。ただし、家庭の経済的な事情により、アルバイトが必要な場合は、まずは担任に相談をし、学校の許可をとり実施すること。
 - ・学校生活や学業に支障をきたしたり、生徒指導対象となった場合にはアルバイトを停止とする。
 - ・無断アルバイトは指導の対象とする。

5. 暴風時等における生徒の登下校

- (1) 登校前
- ア 午前 7 時時点、暴風警報が西三河北西部、または居住する地区に発令されている場合は、その時点では登校をしなくてよい。
 - イ 午前 7 時から午前 11 時の間に警報が解除とされたときは、解除 2 時間後からその日の授業が開始される。安全確認した後に登校をすること。
ただし、登校するのに危険な場合は学校（担任）に連絡をし、身の安全を第一に考えること
 - ウ 午前 11 時以降も引き続いて警報が発令中であるときは、当日の授業は実施しない。
- (2) 登校後
- ア 天候等の状況により授業を中止し下校する場合がある。その際は、身の安全を第一に考え、十分に注意して帰宅すること。ただし、帰宅が困難な場合は担任に相談すること。
 - イ 本校職員の指示に従って行動をすること。
- (3) 暴風時等に問わず、緊急連絡をメールやホームページ、X(旧ツイッター)等でする場合があります。逐次確認するようお願いします。

6.連絡事項

(1) 保険について

- ・自転車損害賠償保険加入について<豊工生の手引きより>
- ・高校生総合保障制度のご案内（別紙封筒）

万が一の事故・けが等、相手への賠償責任、自転車保険等を考え、任意保険の加入が望ましいです。加入される場合、封筒の申込用紙に必要事項を記入し、指定期日までにポストに投函して下さい。

- ・学校管理下でのだけが

日本スポーツ振興センターの保険は全員加入します。けがをした場合は保健室まで報告してください。

(2) 定期券について<鉄道、バス利用者>

鉄道、バス利用者は、豊工生の手引きに折り込んである通学証明書（職印のあるもの）が必要となります。通学証明書にボールペン（黒か青）ですべて記入の上、本日中にクラス担当教職員へ提出して下さい。発行は入学式になります。通学証明書を担任から受け取り、出札係配置駅（有人駅）で提示し、定期券を購入して下さい。（証明済みの用紙を訂正した場合、定期券は発行されません）名鉄鉄道、名鉄バス、おいでんバスに関しては、名鉄観光サービス（株）豊田市駅旅行センターでも購入できます。

記入例		○ 通学証明書		No. (控)
使用者の氏名 年令及び性別	豊田 工太		(15 才) 男	
使用者の住所	豊田市竹元町南細路3			
通学区間	新豊田 駅 三河上郷 駅間		經由	
部科及び学年	部 科 1		学年(年次)	
通学定期乗車券の通用期間	3		ヶ月	
同じ内容を2つ書く 太字の箇所を書いてください	始日	平成 29 年 4 月 7 日から		
		平成 年 月 日発行		
記入例		○ 通学証明書		No.
使用者の氏名 年令及び性別	豊田 工太		(15 才) 男	
使用者の住所	豊田市竹元町南細路3			
通学区間	新豊田 駅 三河上郷 駅間		經由	
部科及び学年	部 科 1		学年(年次)	
通学定期乗車券の通用期間	3		ヶ月	
※通学定期乗車券の使用開始日	平成 29 年 4 月 7 日から			

※通学区間

「自宅最寄り駅」から以下の「学校最寄り駅」

<名鉄電車>

「竹村駅」・・・本校まで約2.9 km

「若林駅」・・・本校まで約2.8 km

<愛知環状鉄道>

「三河上郷駅」・・・本校まで約1.9 km

※通用期間

1カ月・3カ月・6カ月のいずれか。

必ずご記入ください。

※使用開始日

すべて1学期始業式の日となります。

(入学式の日に生徒へ渡します)

※注意点

- ・身分証明書交付（4月中旬ごろ）後の定期券の購入は身分証明書が通学証明書（在籍証明書）になります。身分証明書を提示し、各自で購入して下さい。継続使用の場合も同じです。
- ・電車通学をするか決めかねている場合でもご提出し、証明書の申請をしてください。
- ・駅の変更等があれば入学式時にお申し出ください。
- ・2枚以上必要な場合は近くの教職員にお申し出ください。
- ・記入漏れがある場合は発行が遅れる場合がありますので、再度ご確認ください。

(3) 生徒指導部の回収物

① 本日提出

- ・学校生活における申請書（該当する生徒のみ）<豊工生の手引きより>

学校生活を円滑にするために申請事項があればご記入ください。

申請者は、入学式全日程終了後、生徒指導部の教職員と面談を予定しています。

② 入学式に提出

- ・生徒指導個票3部<豊工生の手引きより>

組と番号は正式決定してから記入して下さい。

自宅付近の略図はネット地図の印刷でもかまいません。その場合はしっかりとのり付けして下さい。

- ・個人情報公表に関する同意書<豊工生の手引きより>

③ 指定期日まで

- ・高校生総合保障制度の申込み (任意・指定期日までにポストへ投函)

(4) 入学準備

- ・持ち物にはすべて記名して下さい。

特に以下の全員が共通して持つものには必ず記名してください。

スリッパ・体育館シューズ・制服類(ブレザー・ズボン・スカート、ネクタイ、リボン)・実習服
教科書・電卓・製図器など

(5) 生徒指導部のルール、指導について

別紙「令和7年度豊田工科高校のルール」をご一読ください。

令和7年度版については準備が整い次第、ホームページに載せます。

(6) 部活動について

本校では1年生は全全部活動に登録していただきます。

4月10日(部紹介)～20日(見学) 4月16日(部活動仮登録) 4月21日(部活動本登録)

7. 保護者の方へお願い

高校生として相応しくない行動等があった場合には、特別な指導をする場合があります。

その際には保護者の方へ連絡するとともに、ご来校いただく場合もあります。

生徒の成長のために、ご家庭と学校が一つになることが何より重要と考えます。

ご理解、ご協力をお願いします。

(1) 来校依頼、家庭訪問について

ア 学業不振や校則違反、その他直接連絡が必要な場合には電話連絡をはじめ、来校依頼や家庭訪問をさせていただきます場合があります。

イ 保護者来校の学校行事にはできる限りご出席ください。

(2) 補導等を受けた場合

生徒が補導等を受けた場合はすみやかに学校へ連絡をしてください。内容によっては学校において指導をする場合があります。生徒を早く正しい方向へ導くためにもご協力ください。

(3) 学校生活での困りごとについて

学校生活で困ったこと、わからないことがあれば、担任・部活動の顧問等にご相談ください。

生徒指導上のことで何かありましたら生徒指導主事までご連絡ください。 学校代表 Tel: 0565-52-4311

自転車損害賠償保険加入について

愛知県では2021年10月の条例改正に伴い、自転車損害賠償保険等の加入が義務化されました。

本校では生徒全員が年度当初の徴収金で「全国高P連賠償責任制度」に加入していただいている、条例の条件は満たしています。ただし、この保険は以下の場合のみ適用される保険です。ご理解いただくとともに、詳細についてはホームページをご覧ください。

補償の範囲	支払い限度額
日本国内における生徒の行為に起因する賠償責任を24時間補償します。 ※生徒に過失があった場合	対人・対物合算 1事故1億円 免責金額（自己負担額） 1事故5千円

上記以外の総合的な保険、支払限度額の大きい保険については、別封筒の「高校生総合保障制度」などがあります。その他保険の加入や手続きはお近くのサイクルショップやコンビニでも可能です。保険料・保険内容について詳しくは各店舗でお問い合わせください。すでにご家庭にて保険に加入済みの方は、その継続で構いません。

また、生徒の事故の未然防止に備え、ご家庭においても交通ルール・マナーについてご指導いただきますようお願いいたします。

なお、不明な点がありましたら下記担当部署までご連絡ください。

「全国高P連賠償責任制度」について・・・

「高校生総合保障制度」について・・・

全国高P連	検索
高校生総合保障制度	検索

<担当>生徒指導部

0565-52-4311

6 生徒会

生徒会は、全校生徒の選挙によって選出された役員を中心として、生徒全員の参加および協力により生徒会活動に取り組んでいます。

新入生の皆さんは、本校生徒会を構築していく一員であることを自覚して、生徒会活動に積極的に参加してください。

1. 部 活 動 (運動部 13部 ・ 文化部 8部)

1年次は運動部または文化部のいずれかに所属してください。

運動部	硬式野球・テニス・サッカー・陸上・ハンドボール・バスケットボール・柔道 剣道・卓球・水泳・ラグビー・バレーボール・バドミントン
文化部	写真・自動車・放送・ロボット・美術・音楽・生産技術・情報処理

2. 生 徒 会 行 事

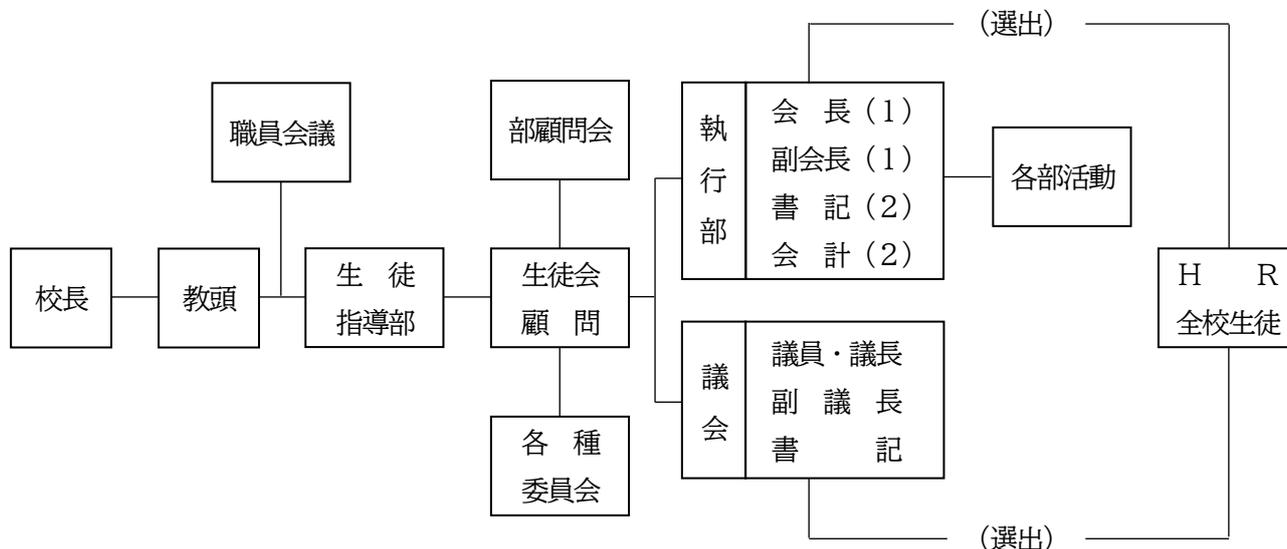
1学期 …………… 部活動登録、部活動予算決定、体育大会、美化活動

1学期 …………… 後期生徒会役員選挙、豊工祭、美化活動

1学期 …………… 会計報告、次年度前期生徒会役員選挙、球技大会

各種募金活動とボランティア化活動の案内等

3. 生 徒 会 組 織



7 図書室の案内

1. 図書室の蔵書

本校の図書室の蔵書総数は約 18,280 冊で、分類別構成比率は次の通りです。

	分 類	構成比率
000	総 記 (図書館、書誌学、百科事典、逐次刊行物、叢書)	5.1%
100	哲 学 (哲学、心理学、倫理学、宗教)	3.3%
200	歴 史 (歴史、伝記、地理、紀行)	9.4%
300	社会科学 (政治、法律、経済、統計、社会、教育、民俗、軍事)	7.3%
400	自然科学 (数学、理学、医学)	11.2%
500	技 術 (工学、工業、家政学)	20.5%
600	産 業 (農林業、水産業、商業、交通)	1.5%
700	芸 術 (美術、音楽、演劇、体育、諸芸、娯楽)	8.1%
800	言 語 (日本語、英語)	4.8%
900	文 学 (日本文学、世界文学)	28.8%

また、分類ごとの主な図書は次の通りです。

- [総 記]
世界名著大事典(平凡社)、世界大百科事典(平凡社)、ブリタニカ国際大百科事典、世界教養全集(平凡社)、
日本大百科全書(小学館)、日本教養全集(角川書店)
- [哲 学]
人と思想(清水書院)、世界の大思想(河出書房)、現代日本思想大系(筑摩書房)
- [歴 史]
世界の博物館(講談社)、日本の博物館(講談社)、日本の歴史(中央公論社)、世界の伝記(ぎょうせい)、
日本の文化地理(講談社)、世界地名大事典(朝倉書店)、日本地名大辞典(角川書店)、世界大地図(小学館)
- [社会科学]
われら地球大家族(リブリオ出版)、世界の生活史(東京書籍)、世界の企業(筑摩書房)、世界紙幣図鑑(日本
専門図書出版)、年中行事大辞典(吉川弘文館)、災害対策大百科(日本図書センター)
- [自然科学]
標準原色図鑑全集(保育社)、ネーチャライブラリー(タイムライフ)、基礎物理学選書(裳華房)、動物大
百科(平凡社)、大自然科学史(三省堂)、骨から見る生物の進化(河出書房新社)、目で見る化学・目で見
る物理・目で見る進化(さえら書房)、地球博物学大図鑑(東京書籍)

- [技術]
わかりやすい機械講座(明現社)、技能ブックス(大河出版)、自動車工学全書(山海堂)、NEW TECHNOLOGY OF CARS (同朋舎出版)、最新高級電験講座(電気書院)、新版エレクトロニクス基礎回路講座(日刊工業)、電算機講座(産報)、メカトロニクス入門(オーム社)、つくってあそぼう全25巻(農文協)、ものづくり現場の英会話ハンドブック(研究社)
- [産業]
日本の産業遺産300選(同文館)、産業界シリーズ(教育社新書)
- [芸術]
現代世界美術全集(集英社)、現代日本美術全集(集英社)、スポーツ科学講座(大修館)、ユネスコ世界遺産(講談社)、コミック版NHK その時歴史が動いた(ホーム社)、コミック版プロジェクトX 挑戦者たち(宙出版)、三国志(潮漫画文庫)
- [言語]
大漢和辞典(大修館書店)、日本国語大辞典(小学館)、古語大辞典(小学館)、新英和大辞典(研究社)
- [文学]
世界文学全集(筑摩書房)、世界文学大事典(集英社)、昭和萬葉集(講談社)、現代日本文学(筑摩書房)、日本古典文学大系(岩波書店)、源氏物語(講談社)、明治文学全集(筑摩書房)、大宰治全集(筑摩書房)、1Q84(新潮社)、蒼穹の昴(講談社)、下町ロケット(小学館)、坂の上の雲(文藝春秋)

2. 図書配架

図書の配架は、北側が新着図書架、000～300、中央が600～800、南側が500、東側が400と900です。西側には新聞雑誌架があります。

- 新聞(朝日、毎日、中日、中日スポーツ)
- 雑誌(Newton, Number、Interface、新電気、CAR GRAPHIC、ベストカー)

3. 図書室利用規定<詳細は図書オリエンテーションで示す>

- (1) 利用できる時間は、昼放課時と授業後4時20分まで。
- (2) 図書を借りる場合は、カウンター係に申し出て所定の手続きをする。貸出は、原則として1人1回1冊とし、その期間は1週間とする。
- (3) 図書を返却する場合は、カウンター係に申し出て所定の手続きをする。手続きが終わったら指定された位置に返す。
- (4) 図書を紛失または損傷した場合は、相当額を弁償する。

8 進路指導

1. 適切な進路選択のために

これからの人生の大部分は職業生活です。進学する人もいずれは何らかの職に就くことになります。そのため、よりよい職業生活を送るには、技術・技能を磨いて実力をつけると共に、心身を鍛え、強い人間にならなければなりません。不平不満は自分の努力のなさをあらわしていることと言えます。高校生活を通じて、よりよい人生観・職業観を実現するよう努力して下さい。

(1) 「自己理解」をする

進学するにしても、就職するにしても、自分がどの方面に向いているかを正しく判断しなければなりません。自分の知的能力、運動能力、感性、興味、関心、行動傾向、人生観、価値観などについて冷静になって見直す必要があります。自分のことを自分では分からない場合も多いので、家族や先生などのアドバイスを受けるよう心がけて下さい。

(2) 「基礎学力・人間力」を身につける

高校生活での学習内容をしっかり身につけるよう努力して下さい。そのためには、日々の授業をおろそかにしてはいけません。自ら学ぶ姿勢に心がけ、分からないことがあれば先生や友達に聞いて理解することが大切です。また「継続性」「協調性」「対話能力」「積極性」「論理的思考」といった人間力を高めることが大切です。

(3) 「進路情報の収集・分析」をする

自分から情報を集め、それを分析して下さい。その積極さが大切です“友達が行くから”とか、“有名だから”、“何となく”では進路選択の根拠になりません。自分が理解し納得できるよう確かな情報の収集と分析に心がけて下さい。

(4) 「進路先を決めるポイント」を知る

就職先または進学先を決める上において、自分の適性・能力に応じた進路先を選択することが大切です。就職する場合は、会社が求めている人物像を理解して選択することが大切です。進学する場合は、入試の難易度や将来の職業まで考えて選択することが大切です。

進路選択に際しては、自分だけで勝手に決めてしまうのではなく、先生や家族にも相談して決めるよう心がけて下さい。

2. これからの大切な進路選択

(1) 学科の選択（1年生）

1年時に習っている工業科目の内容や、各科の見学、先生の話、自分の能力・適性、将来の進路希望を考え併せて、自分に合った学科の選択希望を出すことが大切です。

(2) 進学か就職かの決定（1年生の2学期末まで）

特に、進学希望者は早い時期に意志決定をし、目標に向って確かな学習をしなければなりません。

(3) 具体的な就職先、進学先の決定（就職は3年生の7月、進学は3年生の10月まで）

3年間の学習の総決算です。目標がかない、内定・合格が得られるように学習の積み重ねが大切です。

3. スタディルームについて

本校の学習内容は、3年間の授業のうち約半分が「専門科目」として実施されています。これは大学に入ってから学ぶ、専門科目の勉強には有利かもしれませんが、しかし「共通科目」の授業が少ないので、その分共通科目の入試や大学入学後の一般教養や専門科目のための基礎教養の学習に影響が生じてしまいます。

そのため、本校では2年生から大学進学希望者・企業内学園希望者・公務員希望者で、数学、英語のレベルアップをはかりたいとする人を対象に、スタディルームを設置しています。2年生では4単位分の数学、英語を、3年生では6単位分の数学、英語を「専門科目」の代わりとして受講できます。また、スタディルーム所属の生徒には、進学に精通したスタディ担任が、大学進学に関する相談や学習指導にあたってくれます。

しかし、スタディルームに所属するだけでは十分な学力を身につけることはできません。同じ志をもつ仲間と学ぶことができるこのスタディルームを大いに活用し、さらに自分から進んで学習することが大切です。

9 1年生における選科指導

1. 基本方針

- (1) 進路指導上および学校運営上のことから各学科間のバランスを可能な限りとする。
- (2) 生徒、保護者の進路に対する生徒の能力・適性を考慮し個人面接の上総合的に判断します。

2. 設置学科と定員

現在設置されている学科および定員は下表の通りです。

設置学科	I T 工 学 科	機 械 科	自 動 車 科	電 子 工 学 科
定 員	40 名	40 名	80 名	80 名

※電子工学科に生活コースがあります

3. 年間指導計画 (予定)

4 月	○進路ガイダンス基本方針と年間指導計画
5 月	○生徒対象選科説明会、第1回選科希望調査
6 月	○職業適性検査
9 月	○各科実習室見学(生徒)、第2回選科希望調査
10 月	○保護者選科説明会 ○最終選科希望調査
11 月	○第1回選科面接
1 月	○第2回選科面接 ○選科確認調査 ○学科の決定 ○生徒、保護者への通知

10 各学科の目標・学習内容

1. IT 工学科

(1)教育課程（専門科目）

学年	科目	工業技術基礎	課題研究	実習	製図	工業情報数理	工業管理技術	電子機械	生産技術	電気回路	電子回路	プログラミング技術	ハードウェア技術	コンピュータシステム技術	計
1年		3			2	2			2						9
2年				6	2°					2		2	2°		10か14
3年			3	3			2°	2°			3	2		2°	11か17
計		3	3	9	2か4	2	0か2	0か2	2	2	3	4	0か2	0か2	30か34か 36か40

° 普通科目との選択

(2)目 標

デジタル化が進むモノづくり現場において必要とされる IT 人材を中心に社会で幅広く活躍できる人材育成を目指します。電気や機械、制御技術に関する基礎を身に付け IoT、自動運転システムや生産システムなどの先端技術についても学習します。

(3)学習内容

IT に関する知識、技能の習得	自動走行実習（自律走行ロボット）、センサ、通信（IoT）実習 ハードウェア技術、プログラミング技術
電気、機械の技術・技能の習得	機械加工実習、生産技術、電子機械、電子回路
設計者としての基礎の習得	CAD 実習、製図
実用的な学習	コンピュータ実習（Word,Excel,PowerPoint）、品質管理（QC）
工作機械、制御の技術の習得	マシニングセンタ実習、シーケンス実習
実践力・創造力・協調性の向上	課題研究

(4)進 路

主に職種としては生産技術、生産技能、保守点検、設計開発、通信設備関係などの分野のほか企業内学園があります。

進学先は4年制大学や短期大学、各種専門学校などです。

(5)取得を目指す資格・検定

第二種電気工事士、基本情報技術者、IT パスポート、工事担任者試験、品質管理（QC）検定、危険物取扱者（乙種第1類～第6類）、初級 CAD 検定、リスニング英語検定、情報技術検定、計算技術検定など

2. 機 械 科

(1)教育課程（専門科目）

学年 \ 科目	工業技術基礎	課題研究	実習	製図	工業情報数理	工業管理技術	機械工作	機械設計	原動機	電子機械	生産技術	計
1年	3			2	2						2	9
2年			6	2°		2°	2	2				10か14
3年		3	6	2°				2	2°	2°		11か17
計	3	3	12	2か4か 6	2	0か2	2	4	0か2	0か2	2	30か34か 36か40

° 普通科目との選択

(2)目 標

機械科では、企業の生産現場で即戦力として活躍できるスペシャリストの育成を目指しています。そのため、「ものづくりの基礎・基本」の習得を重視した学習に取り組みます。特に実習などの体験的な学習を通して、実践力や応用力を身に付けます。

また、「人あって技術あり」の校訓のもと、社会人として必要な礼儀・マナー・モラルを身に付けるなど、人間性の向上を目指します。

(3)学習内容

- ①座学では、機械の加工法、機械材料の性質や強度、機械図面の読み方やかき方など機械の専門に関する内容を学習します。（機械工作・機械設計・製図などの科目）
- ②実習では、座学で学んだことを実践することにより、機械加工の技術・技能について基礎から応用までを学習します。（旋盤・フライス盤・特殊機械・溶接・材料試験・計測・NC・CADなどの実習および課題研究）
- ③産業界のニーズに適応できるよう、機械に関する内容に加え、制御やコンピュータの内容も学習します。（シーケンス制御・マイコン（C言語）・Word・Excel・PowerPointなどの実習）

(4)進 路

この地域は、自動車産業を中心とした関連企業が多数あります。機械科では、機械加工に関する技術・技能を幅広く習得しており、卒業生はいろいろな生産現場で活躍しています。主な職種は、企業内学園生、技術職、技能職・生産関係職（機械加工及び組立、生産技術、保全、検査等）などです。

進学先については、4年制大学（工業大学）短期大学、各種専門学校などです。

(5)取得可能な資格等

技能検定2級・3級機械加工（普通旋盤作業）、技能検定3級機械検査（機械検査作業）、基礎製図検定、機械製図検定、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育講習、品質管理検定（QC検定）、リスニング英語検定、計算技術検定、情報技術検定など

3. 自動車科

(1) 教育課程（専門科目）

学年 \ 科目	工業技術基礎	課題研究	実習	製図	工業情報数理	機械工作	生産技術	自動車工学	自動車整備	自動車電装	計
1年	3			2	2		2				9
2年			6	2 [○]		2 [○]		2	2		10 か 14
3年		3	6					3 [○]	2	3 [○]	11 か 17
計	3	3	12	2か4	2	0か2	2	2か5	4	0か3	30か34か 36か40

○は共通科目との選択

(2) 目標

自動車に関する基礎的・基本的な知識と技術・技能を習得させ、自動車産業を中心とする開発・設計・製造・試験・検査・整備などの職場で、先端技術に対応して活躍できる実践的技術者の育成をめざしています。

(3) 学習内容

機械や電気・情報に関する基礎を身につけたうえで、各種産業の技術が集約された自動車を教材として、自動車の原理・構造と各種計測機器の使用法を実習と座学で体得し、実社会で幅広く活躍できるよう学習します。

- ①機械の設計・製図・工作および電気・情報の基礎を学習します。
- ②自動車の原理・構造・機能など自動車工学に関する専門知識と技術・技能を学習します
- ③自動車の試験・検査・整備・法規に関する専門知識と技術・技能を学習します。

(4) 進路就職

分野は専門性を生かして、自動車製造業およびその関連企業に就職しています。職種は、大手自動車メーカーではエンジン等の機能部品開発（実験・検査・試作）、機械の保全業務や企業内学園、ディーラーではメカニック（整備主任者・検査員）として活躍しています。また、進学は4年制工業大学、短期大学（自動車工学科）や自動車整備専門学校などへ進学しています。

(5) 取得可能な資格等

三級自動車整備士（総合）、自動車整備技術検定、計算技術検定、情報技術検定、基礎製図検定、機械製図検定、リスニング英語検定、危険物取扱者乙種第1類～第6類、ガス溶接技能講習、初級CAD検定、第二種電気工事士など

4. 電子工学科

(1)教育課程（専門科目）

学年	科目	工業技術基礎	課題研究	実習	製図	工業情報数理	生産技術	電気回路	電力技術	電子回路	電子計測制御	通信技術	ハードウェア技術	保育基礎	フードデザイン	計
1年		3			2	2	2									9
2年				6			2°	2		2			2°			14か10
3年			3	3				2	2°	3	2°	2°				17か11
合計		3	3	9	2	2	2か4	4	0か2	5	0か2	0か2	0か2	0	0	40か36か34か30
2年生活				6※				2		2			2		2	14
3年生活			3	3※				2		3	2	2		2		17
合計生活		3	3	9	2	2	2	4	0	5	2	2	2	2	2	40

°は共通（普通）科目との選択、※は外部講師による講座等を含む

(2) 目標

電子工学科では電気の基礎をはじめ電子回路及び情報技術（IT）、通信技術、制御技術など幅広い応用分野に対応すると共に産業界に貢献できる生徒を育成しています。

現在、コンピュータによる電子制御技術は、私たちの生活を豊かにする工業製品において欠くことのできないものであり、自動車や家電製品、生産現場の無人化には高度な自動制御技術が使われています。さらにハイブリッド車や電気自動車をはじめとする環境社会への取り組みを踏まえた電気技術の応用分野にも目を向けていかなければならない時代になっています。

(3) 学習内容

- ① 電気・電子の基礎を軸として電子部品（ダイオード・トランジスタ・IC・抵抗・コイル・コンデンサ）の使い方や計測（デジタルオシロスコープ、ファンクションジェネレータ、デジタルマルチメータ等）を学習します。
- ② 電子工学の応用となる情報技術（有線通信、無線通信、デジタルTV、レーダ、通信ネットワーク等）やコンピュータを利用した制御技術（各種機械の制御、プログラミング）を幅広く学習します。
- ③ 発展する高度情報化社会に対応できるIT技術者の育成を目指しています。
- ④ 電子工学科（生活コース）では生活関連科目の学習を通して企業で活躍できる女性人材や男女参画事業を促進する人材の育成にも取り組んでいます。

(4) 進路

電子工学科の進路先は多業種に渡っています。地元の自動車製造関連産業、電子機器製造、電力技術事業関係や情報通信設備関係、電気機器・電気設備の保守や保全関係等を担う企業に多くの卒業生を輩出しています。また、進学を目指す生徒もおり、大学や専門学校等に進学しています。

(5) 取得可能な資格等

電気・電子・情報通信に関係した国家資格を取得できます。電気工事士（第一種・第二種）、2級・3級技能士（電子機器組立て、シーケンス制御）、工事担任者（2級デジタル通信、2級アナログ通信）、ITパスポート、電気工事施工管理技士補、特殊無線技士（海上・陸上）、国家資格の他にもリスニング英語検定、各種検定試験や認定試験があります。

1 1 健康管理について

1 保健関係提出書類（保護者が記入）・提出物について

すべて入学式後の HR で提出

(1) 健康カード

生徒の健康状態を、本人、家族、学校が把握し適切に対処するためのものです。記入例を参考にしてください。ただし、正確に御記入ください。内容に変更等がありましたら、すみやかにお知らせください。

(2) 運動器検診 保健調査票 ・ スポーツ振興センター加入同意書 （健康カードの裏面）

(3) 学校心臓検診問診票

入学後、心電図検査を実施するために必要です。記入例をよく読み、正確に御記入ください。

(4) 雑巾3枚

2 定期健康診断と事後措置について

本校の学校保健目標の一つに、「自ら進んで心身の健康保持増進に努める能力と態度を養う」というものがあります。定期健康診断の結果に基づき、受診、自己の健康管理に努めてください。

3 保健室の利用について

(1) 担任または教科担当へ連絡してから利用してください。

(2) 原則として薬は与えず、休養は1時間までです。休養後、回復しない場合は早退となります。

(3) 早退、受診時には、原則として保護者のお迎えをお願いしています。

(4) 傷の手当てとして、湿潤療法を取り入れています。

(5) 緊急の場合、大病院へ搬送します。その場合、保護者の方に選定療養費を実費でご負担いただきます。御理解をお願いいたします。

4 日本スポーツ振興センターについて

日本スポーツ振興センターとは、学校管理下における生徒の災害につき、保護者に対し災害共済給付を行うものです。詳細は右の QR コードで御確認ください。

(学校安全 Web)



本校では万一に備えて**全員加入**に御協力いただいています。同意書（健康カード裏面）に御署名の上、入学式当日のホームルームで御提出ください。

授業、部活（学校外での活動を含む）、登下校時等で負傷し、受診した場合は担任または担当教員にお知らせください。ご不明な点は、養護教諭までお尋ねください。本校ホームページ「各種書類」「スポーツ振興センター申請」で確認することもできます。必要書類もダウンロード可能です。

5 学校において予防すべき感染症について

予防すべき感染症に罹患した場合、感染拡大の予防措置として、出席停止扱いになります。以下の手続きが必要になります。御確認ください。

* インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の場合

→ 治療報告書を保護者が記入し、調剤明細書等、感染状況のわかる書類と一緒に提出。

* 上記以外の感染症の場合 → 治癒報告書（医療機関で記入）を提出。

どちらの様式も、学校で用意しています。本校ホームページ「各種書類」からもダウンロード可能です。

6 教育相談について

思春期は子どもから大人に成長する過程であり、だからこそ悩みはつきものです。本校はスクールカウンセラーの巡回校です。月に1回程度の来校があります。相談したいことがある場合は、お知らせください。

新 入 生 の 皆 さ ん へ 愛知県高等学校等奨学金の御案内

愛知県では、高等学校等の生徒の修学を支援するため、奨学金の貸与を行っており、多くの生徒が奨学金制度を利用して勉学に努めています。
奨学金の貸与を希望される方は、5月中旬までに学校に申し出てください。

1 申し込みの方法

申請書類を在学している学校から受け取り、学校へ提出してください。

※ 奨学金の予約決定を受けた方も、同様に必要書類を受け取って、学校へ提出してください。

2 奨学金の概要

(1) 貸与月額及び返還期間

区 分		貸付月額	返還期間	左記と選択できる貸付月額	返還期間
国公立校	自宅通学	18,000円	10年	11,000円	6年
	自宅外通学	23,000円			
私立校	自宅通学	30,000円	12年		
	自宅外通学	35,000円			

(2) 返 還

卒業後（又は退学や転学などで在学しなくなった後）半年後から貸与月額に応じた返還期間で返還（原則、月賦・半年賦・年賦のいずれかによる均等返還）

3 貸付の対象となる方

次の(1)及び(2)に該当することが必要です。

(1) 親権者又は未成年後見人が県内に在住し、高等学校・専修学校高等課程に在学の方

(2) 経済的要件（次の(ア)又は(イ)に該当することが必要です。）

(ア) 中学3年生時に高等学校等奨学金の貸与予約決定を受けた方

(イ) 父母等の課税標準額（市町村民税所得割の課税総所得金額）の合計額から一定額控除(*)後の額が、230万円以下の方（前年に貸与予約申請をされ不採用となった方も、(イ)を満たしていれば採用される可能性がありますので、貸付けを希望する場合は申請してください。）

*父母等の扶養親族のうち、令和6年1月1日時点で0歳～15歳の方一人につき33万円、16歳～18歳の方一人につき12万円を課税総所得金額から差引く。

4 問合せ先

愛知県教育委員会 高等学校教育課 奨学グループ（電話 052-954-6785(ダイヤルイン)）

生徒の個人情報の収集、利用、取扱いに関するお願い

このことについて、本校へ提出される書類等における生徒の個人情報の取扱いについては、「個人情報の保護に関する法律」、「個人情報の保護に関する法律施行令」、「個人情報の保護に関する法律施行条例」及び「愛知県教育委員会の保有する個人情報の保護等に関する規則」等を遵守すると共に、下記の基本方針に基づいて個人情報の保護とその目的に合った適切な利用を行います。つきましては、必要な情報の収集に御協力ください。生徒の個人情報の収集・利用について、同意いただけない項目がある場合は担任まで申し出てください。同意いただける場合はその旨を申し出る必要はありません。併せて、各種行事予定・部活動等に関する個人情報の公表につきましては、別紙「個人情報公表に関する同意書」の提出をお願いします。

記

1 個人情報の保護についての基本方針

- (1) 生徒の個人情報の収集にあたっては、その利用目的を明確にした上で、目的の範囲内に限り収集します。
- (2) 生徒の個人情報は、目的外での利用及び提供は行いません。
- (3) 個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏えい等を防止するため、適切な管理体制と安全対策を実施します。
- (4) 必要のなくなった個人情報は速やかに破棄します。

2 個人情報の取扱いについて

- (1) 考査答案をスキャナー等で複写や電子データ化をしたり、デジタル採点ソフトを使用して採点業務を行う場合は、管理職の了解を得た上で慎重に取扱い、利用後は速やかかつ確実に廃棄・削除します。
- (2) ロイロノートやTeams等のクラウドサービスを利用する際は、「氏名」「出席番号」「生徒が作成した成果物(学習プリントの回答も含む)」「アンケート」「小テスト(自動採点した回答を含む)」などの個人情報も取り扱います。
- (3) 定期考査の採点済み解答用紙については、解答用紙(原本)またはデジタル採点したものをプリントアウトした用紙を返却することによって確認や振り返りを行い、電子データをロイロノート等の授業支援ソフトを介して返却することはありません。

3 学校で取り扱う個人情報の収集一覧

別表参照

4 問い合わせ先

愛知県立豊田工科高等学校 生徒等の個人情報に関する取扱責任者(教頭)

電話 0565-52-4336

本校が収集・利用する生徒の個人情報

1 入学時に収集するもの

分掌	項目	利用目的	記載される個人情報の内容
総務	地震時の生徒引渡し・緊急避難カード	災害時の連絡・生徒の引渡しに関する業務	生徒氏名、保護者氏名、住所、電話番号、長期避難先
教務	住民票（中学校卒業時点以降に転居等により住民票の記載内容に変更があった場合のみ）	在学中の学籍管理に関する業務	生徒（氏名、生年月日、性別）、保護者（氏名、現住所）
学級担任 生徒指導 教務	生徒個票	緊急時の家庭連絡や在学中の生徒指導に関する業務 在学中の学籍管理に関する業務	生徒（氏名、生年月日、性別、本人写真、出身中学）、保護者（氏名、続柄、勤務先）、現住所、通学方法、所要時間、自宅学校間の地図
生徒指導	個人情報公表に関する同意書	個人情報を公に使用することの同意確認	生徒氏名、保護者氏名
	学校生活における申請書	学校生活上で配慮すべき事の申請	生徒氏名、保護者氏名
保健	健康カード	在学中の健康、安全管理に関する業務	氏名、保護者氏名、生年月日、健康・安全管理に関するもの等
	心電図検査問診票 色覚の検査について	在学中の健康、安全管理に関する業務	生徒氏名、心臓に関するもの等 色覚検査希望の有無
事務	入学金減免書類	入学金に関する業務	生徒氏名、住所、保護者氏名、家族（続柄、氏名、年齢、職業又は学校名、同居の有無）、減免の事由を証明する書類

2 入学後各学年で収集するもの

分掌	項目	利用目的	記載される個人情報の内容
総務	P T A 会員名簿	P T A の諸活動に関する業務	生徒氏名、保護者氏名、住所、電話番号
教務	公欠・忌引・治癒証明書	成績処理に関する業務のため	生徒氏名、理由
	再試・追試・追認試験受験願	成績処理に関する業務のため	生徒氏名
生徒指導	旅行届及び学生割引証交付願	旅行内容及び緊急連絡先の確認、学生割引証の発行	生徒氏名、年齢、身分証番号、同行者（氏名・本人との関係）、学割証利用区間、保護者氏名
	アルバイト届・申請書	アルバイト内容の確認等の生徒指導に関する業務	生徒氏名、住所、電話番号、保護者氏名、アルバイト先、勤務日、勤務時間、期間
	原動機付自転車通学許可願・誓約書	原動機付自転車通学の許可及び通学に伴う誓約	生徒氏名、保護者氏名、住所、最寄り駅までの距離、使用理由、最寄り駅までの略図
	通学方法変更届	通学方法の変更の把握と通学証明書発行	生徒氏名、保護者（氏名、印）、通学方法、住所変更、変更理由（任意）
	電動アシスト付自転車使用願	電動アシスト付自転車使用者の把握	生徒氏名、保護者氏名
	紛失・盗難届	紛失・盗難物品の把握と発見された時の返却のため	生徒氏名、保護者氏名、紛失・盗難被害物

生徒指導	生徒手帳発行願	生徒手帳の再発行の把握	生徒氏名、保護者氏名
	交通事故に関する報告書	交通事故の報告・把握	生徒氏名、事故の詳細
	異装許可願	服装・履物の異装の許可	生徒氏名、保護者氏名、異装箇所、理由
	個人・クラス写真	在学中の生徒に関する指導全般	生徒の写真
	人との関わりアンケート	いじめの実態調査、生徒の相談事対応	生徒氏名、いじめ等に関するアンケート
進路指導	進路・選科希望調査	進路指導及び選科に関する業務	氏名、進路・選科希望
	インターンシップ等申込書	在学中の企業研究のため	生徒氏名、保護者氏名、住所、連絡先、個人写真
保健	健康診断票・各健診問診票	生徒の健康・安全管理のため	生徒氏名、性別、健康状態を把握する各種項目 身体計測・健康診断結果
	保健室来室カード	生徒の保健室利用状況の把握	生徒氏名、保健室利用時刻、健康状態
	新体力テスト記録表	在学中の健康・安全管理、学習指導、進学・就職に関する業務のため	生徒氏名、性別、生年月日、身長、体重、視力、聴力、体力テストの結果
	健康チェック表	宿泊行事における健康状態把握	生徒氏名、当日・前日の健康状態
	学校生活管理指導表	生徒の疾患の把握	氏名、生年月日、疾病履歴等、生活上の留意点
	スポーツ振興センター申請書類	医療費請求	生徒氏名、保護者氏名、生年月日、災害発生の場所、日時、状況、傷病名、医療機関の名称
	債権者登録 PTA 連合会書類	医療費給付 治療見舞金請求	生徒氏名、保護者氏名、住所、電話番号、振込口座 生徒氏名、保護者氏名、医療点数、振込口座
生徒会	部活動登録	競技団体への登録及び各種大会参加に関する業務	生徒氏名、性別、生年月日、競技種目
	生徒会主催行事及び活動名簿	生徒会主催行事及び活動に関する業務、クラス運営に関する業務	生徒氏名
各産業科 工務	各種検定・資格申込書	検定試験申込等業務	生徒氏名、生年月日
学年	個人面談資料	在学中の生徒指導に関する業務	生徒氏名、進路希望、その他
	アレルギー調査	学年行事、修学旅行での食事に対応するため	生徒氏名、アレルギー
情報管理・研修	愛知県学習用パソコン等貸出申請書及び承諾書	生徒用タブレット使用のため	生徒氏名、住所 保護者氏名、住所、電話番号、生徒との続柄
	同意書	生徒が成人年齢に達した後も連帯して保証に同意してもらうため	生徒氏名、住所 保護者氏名、住所、生徒との続柄
事務	授業料口座振替申込書及び PTA 用自動払込利用申込書	在学中の授業料及び学校徴収金の納入に関する業務	保護者氏名、住所、生徒氏名、口座名義人氏名、口座番号
	就学支援金・奨学給付金に関する書類	就学支援金・奨学給付金に関する業務	保護者氏名、電話番号、住所、生徒氏名、生年月日、保護者の課税証明書等、口座名義人氏名、口座番号
	在学証明書交付願	在学証明書の発行	保護者氏名、生徒氏名、生年月日
	通学証明書交付願	通学証明書の発行	生徒氏名、住所、通学区間

3 3年生のみ収集するもの

分掌	項目	利用目的	記載される個人情報の内容
生徒指導	自動車学校入校希望調査票	調査結果を把握し、各自動車学校へ概数を報告	生徒氏名、住所、生年月日、保護者氏名、入校自動車学校
	運転免許証取得願並びに誓約書	運転免許証取得願並びに誓約	生徒氏名、保護者氏名、入校自動車学校、
進路指導	就職者斡旋申込書	就職先確認、就職関係書類作成等進路指導に関する業務	生徒氏名、保護者氏名
	公務員採用試験申込書、指定校・一般推薦等申請書、受験出願(調査書交付願等)	受験先確認、受験書類作成等進路指導に関する業務	生徒氏名、保護者氏名、受験先、受験日時
	受験結果報告	次年度以降の進路指導用資料等進路指導に関する業務	生徒氏名、採用試験結果、入試結果、最終進路先
学年会	卒業アルバム	卒業記念	生徒氏名、各種活動の写真
事務	卒業見込証明書交付願	証明書発行に関する業務のため	生徒氏名、生年月日、年齢
	卒業証明書交付願	証明書発行に関する業務のため	氏名、生年月日、年齢、本人確認書類写し
	卒業証書台帳作成原稿	証書及び卒業証書台帳の作成	生徒氏名、生年月日

※氏名には学年組番号を含む場合がある。

新入生保護者の皆様へ

愛知県立豊田工科高等学校長

地震時の生徒引渡し緊急避難カードについて

本校では、地震等の災害時にお子様の所在をはっきりさせるため、「緊急避難カード」を作成しております。有事の際には、このカードを利用し、保護者の方に引渡した日時や自力帰宅した日時等を記録しておきます。

つきましては、保護者の皆様には下記の項目について、御回答いただきたいと存じますので、御協力お願い申し上げます。

回答につきましては、別途 Microsoft Forms (下記 QR コード, URL) より御回答ください。

	回答項目	備考
1	受検番号	本校を受検した時の番号
2	お子様の氏名とフリガナ	
3	現在お住まいの中学校区	現在お住まいの校区であり、出身中学校と異なる場合があります。
4	お子様の生年月日	西暦
5	お子様の血液型	
6	お子様の性別	
7	お子様の携帯電話番号	
8	お子様のメールアドレス	
9	御自宅の郵便番号と住所	
10	保護者(父母)のそれぞれの氏名と電話番号	
11	同居している御家族以外の保護者の方のお名前, 続柄, 電話番号	
12	本校に在籍している兄弟姉妹(いれば)	
13	一時避難場所名と住所, 電話番号	一時避難場所: 生徒が緊急避難する場所(学校や公民館)各市町村のHPにて紹介されています。
14	長期避難場所名と住所, 電話番号	長期避難場所: 地震等により家が倒壊や焼失した場合の長期的な避難場所

回答URL: <https://forms.office.com/r/2fGWJuZiAS>

